

ワークショップ2	
タイトル	「健康の社会的決定要因」研究とプライマリ・ケアへの応用
日時	6月13日(土) 9:30-12:15
企画責任者	長嶺 由衣子 (公募企画)
定員	48名
開催の目的・概要	
<p>【開催の目的】</p> <p>【背景】</p> <p>国民の健康政策の全体像を示す健康日本21(第2次)において、社会疫学の知見(「健康の社会的決定要因」を研究する学問分野)に基づく、「健康格差の縮小」の必要性が「健康寿命の延伸」に加えられた。「健康寿命の延伸」においてはプライマリ・ケアの役割も大きく、日々の診療や活動の中で「健康の社会的決定要因」を考慮し、実践に活用すべきこともLiam Smeeth(2001, イギリス)らによって示唆されている。</p> <p>また、現在、日本のプライマリ・ケアの現場では、今まさに施設横断的な量的研究をするための基盤整備が進んでいるところであり、今後多くのデータを活用して地域における疾病の現状分析や治療の効果、地域連携が必要な部分の抽出、事後評価などを行っていくことが予想される。そうしたデータの分析のためには社会疫学研究の視点は不可欠とも言え、プライマリ・ケアと社会疫学が両輪となって、地域の人々の健康を支えていくことでより深く広いケアが可能になるとも言える。</p> <p>【目的】</p> <p>今回は、日本の社会疫学をリードしてきた先生方を迎え、その考え方の基礎、これまでの知見を紹介するとともに、参加者の現場からどのような格差が見えているのか、その格差を縮小することは本当に健康に寄与するのか、そしてその対策に地域医療・包括ケアは寄与できるのか、などについて研究計画を立てる形式で一緒に考えていく。日々の臨床における疑問を疫学研究の視点からどのように計画として組み立てていくかも体験していただけるようにしたい。</p> <p>【概要】</p> <p>【ワークショップの流れ(予定)】</p> <ol style="list-style-type: none">1. 開会/WSの概要説明+ケースの紹介2. 講義:健康の社会的決定要因の概念説明, 研究成果紹介3. GW:各グループの自己紹介/現場の所感を話してもらう4. 講義:SDHの研究について(どのように組み立てるか?)5. GW:研究テーマを決める/計画を立てる6. 各グループの発表/先生方からの講評	